

学校選択制に関する学校アンケート結果

平成25年9月実施

【アンケートの内容について】

- ◇目的
学校選択制についての各学校の意見や学校運営への影響等についてアンケートを実施し、今後の制度の在り方について検証する。
- ◇調査対象
市内全小中学校
- ◇回答数
27校（全体の100%）

問1 江別市では、平成17年度に学校選択制を導入し今年で9年目を迎えましたが、学校現場における学校選択制のメリット及びデメリットについて、どのようにお考えですか。

(1) メリット

①【選択肢が広がる、魅力のある学校を選べる】23件

1	保護者が、学校の特色から選択できるという部分は評価できる。
2	保護者、児童・生徒の意向や希望が尊重され、学校選択ができる。
3	児童生徒にとって自分の興味のあることや得意とすることにチャレンジしやすい。
4	保護者が自分の子に合うと考える学校を選べるようになった。
5	中学校は部活の関係で、自分のやりたい部活のある学校に行くことができる。
6	希望者がごく少数の現状なので、メリットやデメリットを考えるまでに至っていないが、自分の学びたい学校で学べるとすれば、当然、学習意欲という部分では違ってくるのが考えられる。
7	学校の持つ特色を生徒や保護者が選べる。
8	保護者・生徒の選択肢が増える。
9	部活動で学校を選ぶことができるので子供の可能性が広がる。
10	部活動など保護者が学校の特色を踏まえて選択することで、学校も生徒の力を伸ばすことができる。
11	子どもに合った学校へ入学する選択肢の幅が広がる。
12	親自身が選択したと考える主体的な考え方が見られる。
13	各校の特色、小学校では主に学校の規模を、中学校では部活による選択をすることができ、児童生徒、保護者への教育ニーズに応えられる機能の一端を果たしている。
14	子どもの特性に応じた教育活動を展開している学校を選択できる。
15	保護者・生徒にとっての選択肢の保証。
16	選択権があるというだけで、保護者・生徒にとって大変良い。
17	子どもや親の希望に沿った学級規模、通学距離、教育活動の学校を選択できる。
18	希望する部活動等の選択の場が広がった。
19	学校の校風や部活動などの学校の特色をもとに、自分が通いたいと思う学校を選択することができる。
20	部活動を選択できる可能性がある。
21	部活動によって選べる。
22	学習や生活の環境を選択できる。
23	子どもの行きたい学校があればそこに行ける。仲の良い子どもと一緒に行くことができる。

②【人間関係のトラブル解消】 7件

1	在籍校におけるリスク（人間関係等）を回避できる。
2	中学校を選択することで、小学校からのいじめを回避できる。
3	不登校など特別な事情を抱えている場合や、特別支援への通級などを考慮するにあたって子どもの状況を考えることができる。
4	事情があってもどうしてもそのまま決められた中学校に上がりづらいというケースの受け皿となっている。
5	小学校で人間関係がうまくいかなかった場合でも、中学校でやり直せる可能性がある。
6	固定された人間関係を離れ、新しい環境で学ぶ機会を得ることができます。
7	中学校では新たな人間関係の中で学校生活を送ることができる。

③【通学の面】 4件

1	区域だけでなく、通学距離、安全面を考えて決めることができる。
2	校区内の遠い学校に行かなければならない児童が、隣の校区の距離的に近い学校に行くことができ、通学の安全確保の面からよいと思います。
3	校区の境界線近くの児童生徒にとって、通学距離の短縮が可能となる場合がある。
4	地域によっては、交通の便など通学手段が容易になる。

④【学校、保護者の変化】 8件

1	学校独自の取り組みを考えたり、地域との連携を深めたりと、学校の特色を出そうという動きが出た。
2	保護者がより学校教育に関心を持って関わるができる。
3	特色のある学校には、強化する部分が明確でよいと思う。
4	特色のある学校が増えた。
5	学校独自のカラーを出そうと、学校ごとに工夫をしている。
6	特色ある学校づくりが進んだ。
7	学校の活性化に取り組む意識が高まった。
8	それぞれの学校で自校の魅力をアピールできる。

⑤【その他】 10件

1	保護者の意思で学校を選択しているので、方針に納得してもらえるように説得できる。
2	メリットを感じない。
3	入学前の人間関係を維持することができる。（スポーツクラブを含めて）
4	小規模校では特にメリットはない。
5	児童の増加により学校の適正規模が維持される。
6	僅少差学年における学級増。
7	入学前の友達関係を継続した状態で近隣校への入学が可能である。
8	障がい疑われ、通常学級での学習が困難になった際に、同じ中学校内の特別支援学級に在籍移動をする方が安心だということで、特別支援学級のある隣の中学校の通常学級に進学した子もいる。
9	明確な目標を持って入学してくる生徒が多いため、生徒の中で良い刺激になっている。
10	友人関係を継続しながら学業や部活動などに取り組める。

(2) デメリット

①【通学上の問題】 18件

1	車での送迎の際、乗降場所に危険がある。不審者対応が広範囲になる。
2	通学に伴う安全確保が難しい。
3	通学に伴う時間がかかったり、不審者との遭遇や事故の危険性が高まったりする。
4	学校が遠くなることによって、保護者の負担や子どもの安全性に問題が出てきた。(交通安全面・不審者)
5	通学距離の長くなる児童生徒の安全面が心配です。
6	通学距離が長いので、登下校が心配(特に下校時刻の遅い時)。
7	校区外からの自転車通学を認めるのは安全面からおかしい。
8	校区外の児童が増えることによって、集団下校等の緊急時の対応や登下校時の安全面に不安がある。
9	通学における安全確保が課題となる。
10	登下校時、交通や不審者からの安全を確保する面が課題である。
11	登下校の安全面に課題がある。
12	通学距離が長い場合の安全確保。
13	校区外からの子どもが通ってくるため、登下校時等は安全面において細やかな配慮が必要となる。
14	不審者情報も増加しており、通学上の安全性に不安が生じる。
15	長距離通学者が増加し、事故に遭う危険性が高まる。
16	通学距離が長くなり、子どもの登下校時の安全面が危惧される。
17	通学(集団下校)などが大変。
18	登下校に関する安全管理が難しい。

②【学校間格差の拡大】 4件

1	人気のある学校のランク付けにつながるおそれがある。
2	義務教育でありながら、学校間格差が生じる。
3	学校間の格差を付けるおそれがある。
4	学校間の格差ができる。

③【地域とのつながりの希薄化】 15件

1	地域に住んでいるのに通っている学校が異なることで、子どもの放課後の付き合い方に困難さがある。
2	下校後の遊び仲間ができない。(低学年はとくに)
3	地域に帰ってからの遊びが限定される。
4	校区外を選択した場合、地域とのつながりや下校後の児童生徒の交流が、居住している所とも通学している所とも希薄になってしまう。
5	地域と学校の結びつきを阻害する。
6	放課後に同じ地域の子と遊べない。
7	地域に住んでいながら、地域の育成会行事等は学校を中心に活動しているため、他の学校に通っている児童が参加できない状況にある。
8	地域性が損なわれる。

9	校区内からPTA会員が減少する。
10	児童の放課後の遊び相手がいなくなる事。
11	地域と一体化した教育に関しては、学校と連携した町内会活動について、校区外通学の児童生徒へは十分伝わらない。
12	児童生徒の住む地域の方々との関係や限られた放課後の過ごし方により、友達とのつながりに不利益が生じる。
13	校区外からの通学児童は、家が離れているため、放課後の交友関係が作りにくいように思う。
14	帰宅後の友達関係。
15	地域の子どもの交流が少ないと思う。入学前の友達関係が色濃く残るように感じている。

④ 【学校運営上の問題】 8件

1	現在でさえ児童数が少ないのに、校区の数少ない子ども達が中規模以上の学校に流出することにより、学級の複式化が加速している。
2	児童生徒の男女のバランスや校舎の使用頻度が変わる可能性がある。
3	学級数が読み切れないことがある。(特に定数ぎりぎりの時)
4	次年度の生徒数によって教員数が左右し、特に減少する側にとってはデメリットである。
5	新入学児童数の確定が遅くなるため、入学式等の準備が煩雑になる可能性がある。
6	小規模校では、学校選択制によって地区の児童が自校に入らなくなることで、事務職員と保健主事等の配置に影響する。
7	次年度の学級数が僅少差を除き、確定する時期が遅く、教員数や部活など様々な問題が発生し、学校経営に支障をきたす場合がある。
8	入学受け入れ準備の際に、入学予定者数の変動が随時あるので大変である。

⑤ 【指導上の問題】 9件

1	実際に集団下校する場合は、保護者が迎えに来るまで学校で児童を預からなければならない。
2	選ぶ権利をはき違え、短期間で転校を繰り返すケースもある。
3	連絡体制の整備が急務。
4	部活動が選抜チームのような学校があり、生徒が勝利至上に傾きがちである。
5	学校間の交流が増え、生徒指導が必要な問題行動も多く見られる。
6	校区が広がることで家庭訪問に時間がかかる。
7	緊急時、校区内の他の児童との対応が異なり、保護者との連絡等、細心の注意が求められる。(校区外通学児童は保護者に迎えに来てもらうことを原則としている)
8	放課後の児童生徒の生活を把握しづらい。
9	集団下校訓練を実施して、安全面を考えると、保護者が必ず学校に迎えに行けるなどを条件に許可してほしい。保護者はたかが訓練でしょ…という感じで受け止めている。

⑥ 【その他】 15件

1	市内転居でもそのまま通っていると誤解している保護者がいる。
2	保護者同士の人間関係ができづらいので、対応に苦慮することがある。
3	学校の規模など、特色ある学校づくりとは関係のない観点で選択される場合がある。また、特別な配慮などの要望を聞いてくれるかどうかという観点で秤にかけられる場合もある。
4	家庭によって異なる希望を全てかなえることはできない。

5	兄弟姉妹で通学する学校が違うこともあり、保護者にとっては経済的な負担や行事への参加が増えることなどが考えられる。
6	小中の連携が取りにくいこともある。
7	中学校では部活動重視の選択をしている現状がある。
8	他校にない部があるので選択したにもかかわらず、途中で事情が変わり廃部になってしまったということが起こった。
9	登下校の手段・時間に配慮しなければならず、部の活動が制限される場合がある。
10	部活動の強い学校に生徒が集まる。
11	保護者側に「おらが学校」の意識が薄まる。
12	今ひとつ、選択制についての詳細が浸透していないように思う。さらなるPRが必要である。
13	安易な考えで、校区外を選択する生徒や保護者がいるように思う。
14	学校間の競争による摩擦は起こり、学校間・教師間の情報交流が難しくなるのではないかと。
15	学校への期待が高まり過ぎても対応しきれないかわからない。学校にも色々と事情があると思う。

問2 選択できる学校の範囲を今の隣接校方式から、範囲を「広げた方が良い」という一部保護者の声がありますが、そのことについてどのようにお考えですか。

①【賛成、どちらかという賛成】 13件

1	学校選択制を続けるのであれば、範囲の制限を設ける必要はない。
2	選択肢は広い方が選択制の意味があると思う。
3	学校選択制をするのであれば、全域でなければ意味がないと思う。
4	児童生徒の興味ある学習場面や部活動などの選択肢が増えるので良い。
5	親戚の子どもや就学前の幼稚園などの関係で親しい友達と同級生になれる。
6	いじめなどの事情があるのであれば、隣接ではなく離れていた方が望ましい。
7	広げたとしても通学手段は保護者責任で、学校側に負担がかからないようにしてほしい。
8	現状と大きな差はないと考えられるので、要望数で判断してもいいのでは。ただ、一部の保護者の要望に左右されないでほしい。
9	送迎を保護者の責任で行うことが徹底できれば良いのではないかと。(あくまでも、登下校は保護者の責任ということが条件)
10	通学時の事故等を防ぐための安全確保ができればよい。
11	保護者の送り迎えが必須条件ならよい。
12	範囲を広げた方が、子どもの行きたい学校へ行けるのでよい。
13	登下校などの安全面について「保護者の責任において」というあたりをしっかりと押さえられるのであれば、問題ないのではないかと。

②【反対、どちらかという反対】 42件

1	部活動、少年団のためであれば反対である。保護者の方にもこのことについて考えてほしい。
2	やめるべきだ。広げたい理由はこういったことなのか。
3	通学時の安全確保を保護者の責任で行ってもらえるよう説明する必要がある。
4	上記デメリットを考えると、広げない方が良いと思う。
5	小学校の場合は、通学距離が負担になることも考えられる。基本的には隣接校方式のままでいい。
6	登下校における負担や友達との遊びなどの放課後活動における懸念等、隣接校方式を採用している理由を保護者に説明すべき。

7	少子化現象やドーナツ化現象など今後を見通した校区の再編成が必要になってくる。
8	範囲を広げる必要性を願う声はほとんど聞かないので、よくわからない。
9	通学に関わって、保護者にとっては金銭的な負担と交通事故等の心配が増えるのでよくない。
10	子どもは地域でも育てることが大切だと考えるため、広げることには反対である。
11	保護者の中には、地域の児童数が絶対的に少ないことと、地域の保育園に他地域から通っている幼児も多いため、より広い範囲から選択できるようにして、本校に通えるようにしてはどうかといった声もある。しかし、「地域の子どもは、地域で育てる」という視点に立った時、範囲を広げることが在籍する子どもたちに良い影響を与えるとは考えにくい。
12	小学校の場合は特に、自宅のある地域と連携した子どもの育成という観点からも、現在の隣接校方式の原則でよいと思う。
13	学校選択制の幅が広がることは、それを望む家庭においては喜ばしいことだが、一方で、リスク（人間関係、部活動等）を背負った時に子どもへの影響がより大きくなると思われる。
14	子どもを預かる学校と保護者の関係においては、フェアな関係を維持するために登下校における安全確保責任、新たな教育活動に対する異議申し立てのルートを確立することが必要である。（前在籍校との比較論等）
15	保護者には生徒が人としてまわりの子どもとの関わりによって成長していくという視点が抜けている場合があり、人間形成よりも技能に偏った選択も見られる。したがって、学校や教育委員会が義務教育段階で選択の範囲を広げることにはマイナスの要素が多いと思う。
16	教員による交通安全指導などを考えると、校区が広がることで掌握が難しい。
17	どのような理由で広げたいのかを知りたい。広げる意図が不明確である。
18	範囲を広げることで、通学距離や時間が長くなるのであれば生徒負担が増え、好ましくないと思う。
19	小中学校は、地域とともにあるべきだと考えているので、原則的には必要ないと思う。
20	部活動の件で学校を選ぶとしても、部活そのものが永遠に存続するかどうか学校によって違うので、部活動で選択するのはよくない。
21	学校選択制を利用した生徒の異動で学級減等が発生しやすくなる。
22	隣接が多い学校とそうでない学校があるから、そういう意見も出ると思う。
23	登下校の安全面が心配。
24	できる限りその児童の住む地域で育てた方が良い面もある。
25	自宅に帰ってから近くに友達がいないために、子どもの活動が家庭内にこもりがちになる。
26	現状のままでよい。範囲が広がると居住地が分散し、家庭訪問等に時間がかかる。緊急時（不審者発生等）における安全確保ができない恐れがある。
27	小学校は隣接校方式が限界で、それ以上はバス通学等新しい課題が出てくる。
28	中学校は部活のみを考えると範囲を広げる方法もあるが、それのみを考えて選択させることが望ましいかは疑問である。強い部活のある学校に生徒が集中し、弱い学校は休部・廃部となる可能性がある。
29	登下校については、親の責任で行うということの徹底が必要だと思う。
30	学校選択制の基本的な考え方「通学距離及び通学時の安全性」にも考慮し、「通学区域の弾力化」を図っていることからすると、現状で良い。
31	選択肢が広がるのは保護者にとって良いことではあるが、登下校における安全面の心配や緊急時の対応が大きな課題となる。
32	家庭訪問や集団下校等が広範囲になるため対応しにくくなる。現行のままで良い。
33	通学の安全面からも現状の方式でよい。
34	範囲を広げると、入校数が予想しづらくなり、職員定数などの関係で次年度の計画が立てづらくなる。
35	長距離通学者が増えるので、生徒指導上、校外での部分で目が届きづらくなる。
36	地域と学校の結びつきということを考えた場合、あまり離れた場所からの生徒を受け入れることには疑問を感じる。

37	本校では、自転車通学を認めていないが、通学区域を広げると遠くから通うことになり、徒歩での通学が難しくなってきます。安心・安全面からも好ましくない。
38	遠距離通学者を増加させることにつながり、安全面からも通学可能な一定の基準線は必要。
39	範囲を広げすぎると、通学時の安全上の問題が心配であり、現状で良いと思う。
40	学校間の格差がさらに広がる。
41	広げすぎると子どもの安全管理が難しくなる事柄が増えると思う。（緊急時等に予定と違う時刻の下校となった時など）
42	必要ないと思う。

問3 現在は、選択できる学年は翌年度小学校あるいは中学校に入学する新1年生ですが、「他の学年でも選択したい」という児童生徒と保護者の意見もあります。このことについてご意見をお聞かせ下さい。

①【賛成、どちらかという賛成】 12件

1	学校選択制を続けるのであれば、制限を設けるのはおかしい。
2	他の学年で選択するとしても原則4月としてはどうか。
3	実際に入学してみて、予想と違っていたという場合もあるかもしれないので、選択できる機会はあってもよいと思う。
4	入学してから分かることもあるのでよいと思う。
5	途中での転校（校区外通学）は他市町村でもある。
6	通学している学校での、対人的トラブルや学校（担任や部活動等）への不満が、形を変えて他校の選択を希望させることへとつながる場合も考えられ、入学時の選択という規定は妥当と考えます。
7	中学校1年生の学校選択は、部活の関係もあり、児童の思いや考えを反映できる制度であると思われるが、小学校1年生は、子どもの判断や考えで選択はできない。親の判断に委ねられる面が多々あり、必要性については疑問を感じる。また、学校選択制のよさを生かすのであれば、1年生の入学時に限定しない方がよいのでは。
8	自由にしても良いが、小学校在学中に1回などの制限を設け、親の都合や考えだけで1年ごとに学校を変えるなど子どもにとって負担になる状態は避けるべき。
9	行きたいところに行けばよいと思う。
10	友人とのトラブルなどがあったりするので、どの学校にも行けるのは良い。
11	選択した学校が、就学前の自分たちの考えと違うということはあると思う。
12	様々な状況や理由が考えられるので、「保護者の責任において」ということを押さえられていけばよいのでは。

②【反対、どちらかという反対】 40件

1	安易に学校を変えて良いと思われないか心配です。
2	特別な事情があれば区域外通学による転校も可能なようなので、制度として他学年に広げる必要は無いと考える。
3	個別の事情があれば、個々への配慮・対処をしていけば良いと思う。
4	選択できる学年を新1年生に限った理由を保護者にはっきり知らせておかないと、入学時にこんなはずではなかった、変更したい…と考えたり、2・3年生になるときに選択したいと思ったりする保護者は当然出てくると考える。「選択時に慎重に判断してもらうため」等の保護者に納得してもらえる理由があるのなら、それをはっきりさせた上で、現状のままが妥当だと考える。ただ、保護者と児童本人が十分考え、必要と思うのであれば、他の学年での選択も可能にする余地を残しておくのが良いと思う。
5	不登校やいじめ等の複雑な理由を抱えている児童生徒に対しては、学校選択制にかかわらず、区域外通学の制度で対応できると思う。
6	学級編成に支障をきたす。安定した教育環境を得にくくなる。
7	他の学年でも選択できるようになれば、その児童及び保護者の勝手な都合だけで転出入してしまう可能性があり、学校教育としては好ましくないと考える。

8	学校は、経営方針のもと教育活動の充実のため、さまざまな工夫・改善に努めている。他の学年でも選択できるようになると、担任と合わないからとか友達関係がうまくいかないからといった理由で他校に転学することになりかねない。学校は、教科等の学習のみならず、たくましく生きるための精神や努力することの意義、人間関係づくりも学ぶところであるので、入学時のみの選択でよいと考える。
9	選択する学年を増やすということは、極端に言えば毎年学校を変えるということで、何のために選ぶのか、どんな利点があるのかだけでなく、選べない不自由さから学ぶメリットも明確にしておかないと、学校教育が単なる店選びや塾選びと同じようなものになってしまうと思う。
10	中2・中3の学級数変更などが考えられるので、デメリットが大きいのでは。（進路を踏まえた学級の落ち着き、宿泊を伴う旅行的行事の準備など）
11	他の学年で選択したいという児童生徒・保護者の理由が正当なものであればよいが、簡単に転校を考えると負担が大きいのでは…？転校することによる生徒の心理的負担が心配。
12	途中で選択して異動したいという理由がよく分からないので必要ない。
13	心身の健康に支障があるような特別な事情がある場合に限って個別に判断する程度でよいのではないか。
14	何を理由に選択するかにもよるが、途中で選択というのは入学した学校の学校運営を否定する考えだと思う。将来的にもその生徒のためになるかを考えると授業進度も含めて疑問を感じる。（生徒の熱望であれば仕方ないが）
15	何でもかんでもよしとすると、地域もバラバラの生徒が増えてきて、生徒指導上も目が行き届かなくなるのでやめてほしい。
16	子どもがなじめるのか心配である。
17	必要性を感じない。目的が明確でない対応は不安。今のままで十分だと思います。
18	転出入者が非常に増えた場合、年度末の手続きが煩雑になり、新年度準備が大変になる。
19	他の学年で転校を希望した場合は、区域外通学の制度もあるので現状のままでよいと思う。
20	学年編成上、好ましくないと考える。希望者の増減によって年度によって学級編成が行われることは、子ども達にとっても保護者にとっても落ち着かない状況を生み出し、充実した学年・学級経営が図られないと考える。
21	他の学年にも広げると、現在通っている学校から容易に他の学校への転校を希望する者が出てくる可能性がある。
22	基本は、新1年生が良いと思う。 途中となると、生徒指導上、学校間のトラブル増加が予想される。
23	その子どもによって対応は異なると思う。
24	他の学年に広げると、現在通学する学校から容易に他の学校へ希望する者が出てくる可能性がある。子どもにいろいろな場面での適応能力を育てる観点から広めるべきではない。
25	学級編成上不確定要素が多くなるので、現状通りでよい。
26	学校選択の理由が問題となる。
27	安易な選択は、混乱を招く恐れがある。
28	保護者や子供が、学校で何かあればすぐに転校、という考えに陥りやすくないか。
29	学級経営、学年経営という面から、頻繁に児童の入れ替えがあるのはつらい。
30	現状の方式で良い。すべての児童が選択制制度の下に入学して来ているため。
31	人間関係の問題など、自分を責めたり、学校と相談したりして問題を解決しようと努力するのではなく、学校を変えることで安易に解決しようとする児童生徒や保護者が増えるように思われる。
32	新入学時以外でも認めることになれば、毎年学級数の変動が起こり得ることとなり、6年間あるいは3年間を見通した教育活動を行うことができなくなる。
33	通学している学校での、対人的なトラブルや学校（担任や部活動等）への不満が、形を変えて他校の選択を希望させることへとつながる場合も考えられるので、入学時の選択という規定は妥当と考えます。
34	原則はこれまで通りで良いと思う。ただし、子どもが登校しにくい状況等の解決策の一つとして、転校が必要と思われる場合は、他の学年時であっても選択してよいと思う。
35	今のままで良い。
36	学年を広げ過ぎると対応が難しくなる事柄が増えると思う。（緊急時の対応等）
37	混乱し、学校が落ち着かなくなるような不安がある。

38	途中で学校が変わるのはよくないと思う。
39	年度ごとだとか、学期ごとに学校選択を認めるのはよくない。しかし、転居や災害などで通学がひどく不便になった場合は考慮しても良い。
40	1度入学した学校については、同じ地区の学校への転入または編入は認めさせたくはない。

問4 学校選択制の導入により、「特色ある学校づくり」あるいは「地域一体型・学校の顔づくり事業」との関連で、これらを進めようという教職員の意識が高まったかどうか、ご意見をお聞かせ下さい。

①【高まった、どちらかというが高まった】7件

1	「特色ある学校づくり」「地域一体型・学校の顔づくり事業」は、学校選択制のためだけではなく、学校の置かれた環境の中で子どもたちをどのように育てるのか、そのためにどのような教育をしていくのかを焦点化することであると考えてるので、そういう意味では教職員の意識は当然高まったと考え、また各校でのそれぞれの事業が定着して特色がでているような気がする。
2	意識は高まっていると思うが、具体的に選択した理由（何が求められているのか）が分からなければ反省することも難しい。
3	新しい取組を考えたりかなり頑張っているが、発信しているだけに頑張りが認められたりする場がないと職員の意欲も減退する。
4	教職員が学校の活性化に取り組む意識が高まり、特色ある学校づくりが進んだ。
5	ある程度高まったとは思いますが、教職員が江別に異動してきて面食らうことがある。
6	教育課程や地域の良さを生かす教育活動の工夫をしようという意識はやや高まったと思う。
7	特色のある授業や体験をするということで大きく宣伝しているので、先生方も同様の考えで指導してもらっている。

②【高まってない、どちらかというが高まってない】24件

1	あまり高まったとは言えない。
2	学校選択制の導入とは関係ないと思う。
3	学校の特色については、地域性、伝統、今日的課題等により教職員が意欲的に取り組んでいるように感じる。選択制との関連は感じない。
4	特に高まったとは思わない。選択制を意識した取組はなされていない。
5	地域の特色を生かした「特色ある学校づくり」を進めてきているが、学校選択制が導入されても何もメリットがない状況にある。そうした中で、教職員の意識が高まっているとは考えにくい。
6	学校選択制とは関係しなくても、歴史や地域との連携等から特色ある教育は進められている。
7	学校選択制に関わらず、教職員はいつも特色ある学校づくりを目指している。
8	特色ある学校づくりは、学校選択制の導入によって特に変わったという実感はない。
9	あまり意識していない。特色ある学校づくりのため教員配置（教科や部活動）がある訳ではないと思う。
10	特色といっても具体化されず、今まで通り…ではいけない気がする。年度末反省等で何を強化し、特色は何かをはっきりさせるべき。
11	学校選択制で高まったとは思わない。しかし、個々人の中では、「選ばれる学校」を作っていこうという意識はあるのではないかとと思われる。
12	選択制がなくても「地域一体型・学校の顔づくり」は行ってきたため、特に導入によって教職員の意識が高まったという検証は難しい面がある。
13	顔づくり事業と学校選択制の直接的な関連性は見られない。本校では、地域と学校とPTAが一体になって行う行事を行っているが、区域外から通う児童と地域住民の日常的なふれあいはあまり期待できない。
14	学校選択制の導入により、意識が高まったのか、学校長の経営方針から高まったのか、何とも言えない。後者によるものの方が大きいと思う。

15	本校の場合は、地域的に他校との距離があり、通学区域を越えて選択する生徒はほとんどない状態である。現在区域外から通学する生徒も校区から通学可能な近隣通学区域へ転居し、引き続き本校への通学を希望する生徒である。そのため、学校の顔作り事業との関連で教師の意識への影響もほとんど感じられないのが実際である。
16	本校は選択制の導入前から、そのような意識のある学校だと考えている。
17	選択制と教職員の意識の高まりは、関係性がないと思う。
18	選択制で実際に校区外から入学した生徒が少ないため、選択制を起因とする教職員の意識の高まりは感じられない。
19	選択制の導入が教職員の意識変更をきたしたとは考えられない。
20	学校選択制が導入されていなくても、新指導要領の実施等を踏まえ、地域資源や人材、文化等を生かした特色ある学校づくりは確実に進められ、教職員の意識も徐々に高められていったと思う。
21	教職員は選択制に関わらず、特色ある学校づくりを進めている。
22	高まったとは言えない。
23	あまり学校選択制の導入とは結びつかないと思う。
24	教職員の意識が高まるほどの希望者がいない現状である。

問5 学校選択制の導入により、保護者の学校運営に対する関心が高まったかどうかについて、感想、ご意見等がありましたらお聞かせ下さい。

①【高まった、どちらかというが高まった】 11件

1	高まっていると思う。
2	各学校の特色に目が向けられるようになり、関心は高まったと思う。特に、中学進学に向けて選択制を活用しようとする声も聞かれ、各校の様子や部活動の内容などの情報をよく調べていると感じる。
3	学校の存続という視点では、関心の高い方が多い。小規模校は小規模校なりの良いところをアピールすべきだという声もある。
4	いろいろな学校の良いところを探したり、他校と比べるなど、保護者の関心は高まっており、一定の効果は見られると思う。
5	他の学校の教育活動はどのようにしているか等関心をもつ保護者は、増えたと思う。
6	市内一斉公開日に次年度就学該当家庭が授業参観に来ているのを見ると、少なからず関心が伺える。
7	学校で行っている特色ある学校づくりや魅力ある教育活動について、関心を持っていてくれるようになった。
8	入りたい部活があって、校区外の中学校を選んだ例もあり、一部の親の関心は高まったと言える。
9	一斉公開日に熱心に見学される方、お話を聞かせて欲しいという方が多い。
10	学校運営に対する保護者の関心は高まったと思う。
11	保護者の意識としては、高まっていると思う。本校の場合、児童数が少なく家庭数も同様に少ないため、保護者のつながりが強く学校の様々な行事などにも大変協力的に活動してもらっている。

②【高まっていない、分からない】 15件

1	あまり高まったとは言えない。
2	他校を選択する人数がさほど増えないのは、保護者がすでに、学校は地域と一体となってより良い方向を目指し、PTAがそれを支えなければならないということを知っているからだと考えている。
3	もともと教育に関しては関心が高く協力的な保護者が多い。
4	それほど変化は感じない。
5	学校公開日に来校する人数を見ると、あまり影響はないと感じる。
6	懇談等でも話題になったことがない。

7	保護者は部活動に関しては関心が高いと感じる。
8	特に他校と比較することはなく、保護者には学校の方針や伝統を理解していただいている。
9	学校運営へ対しての関心の高まりと、学校選択制の相関関係は本校においては、ないものと捉えている。
10	保護者は常に協力的である。
11	選択制によって保護者の関心が高まったとは感じられない。
12	保護者は、学校運営というより学校の雰囲気重視していると聞く。
13	特に感じたことはない。
14	校区外の保護者からは、（学校運営というより）部活動の内容や種類に関する興味関心を感じる。
15	保護者アンケートではそのような意見は見られないので判断できない。

問6 学校選択制の導入により、どのような変化（教職員、児童生徒、保護者など）が見られたかご自由にお書き下さい。

1	保護者が学校に関心を持ち、よく調べていると思う。
2	保護者や地域の方々が、学校存続の危機を感じ、特認校への移行も含めた学校存続を考える動きが見られた。昨年度本校の「未来を考える会」が、学校を中心とした地域の活性化を図る動きを作るといふ趣旨で設立された。
3	小学校の人間関係、部活動の有無による学校の選択がしやすくなったように感じる。
4	保護者が主体となって、勝手に学校を選べる風潮が高まった。
5	保護者は選択制によって児童数が減少することを危惧し、子どもの将来を考え、児童数の多い学校へ行かせている家庭もあるようだ。また、立地条件から選択制を利用して校区外に出る児童はいても、校区外から来る児童はほとんどいない。
6	部活の監督やメンバーで学校を選ぶ生徒がいる。
7	部活の強豪校が固定化する。
8	各校が力を入れている教育に合わせて生徒が流れている。
9	部活動に力を入れていて、それを理由に選択してくる生徒の多い学校は、その専門の教師が人事異動でいなくなってしまうなど課題が多い。普段の業務の他に3月に不安なことが多いのは困る。
10	各校の特色を発信するようになったと思いますが、本校においては、市内一斉学校公開日に他の地域の参観者がいないことや本制度を利用した児童もほとんどいないことから、特に大きな変化は認められない。
11	変化は特に感じない。
12	保護者については、学校への協力度が高く、一定の良い影響を与えていると思うが、「合わないから他の学校へ」という考えの保護者もごく一部ではあるが。
13	教職員は、校区外から通学しているので、登下校時の安全確保に気を遣っている。また、緊急時の連絡はやや負担がある。
14	大規模校においては、学校内での児童同士の交流ができ、伸び伸び生活している。
15	学校選択制の有無にかかわらず、自校の教育活動の質を高め、特色ある教育活動を展開することが大切だという意識は変わらない。
16	選択制よりも特別支援学級の充実（施設、人員、情報の発信等）のほうが先決だ。
17	縮小、廃止の方向で検討していただきたい。
18	地域の方も在校生の保護者も教員も、本校の学区の子ども達が他の学校に流出して残念がっている。
19	小学校選択の要素では、共働き家庭で実家へ子どもを預け、子供の下校後の管理を祖父母に任せるなど家庭的な事情も多く見られる。
20	「特色ある学校づくり」に取り組む意識が高まっている。
21	関心が高い一部の家庭（保護者、児童生徒）以外、全体として大きな変化は生じていないと思う。

22	学校選択制の開始以前からいた職員はいないので、変化についてはわかりません。ただ、保護者の皆さんは入学校の選択肢が増えたので、変化があったと考える。
23	特に変化は感じない。
24	入学者数が若干増加しているが、大きな変化はない。
25	「この学校に来てよかった」と言っていただけだ。
26	学校選択制を利用した児童生徒は、学校全体に影響を与える人数ではないと思う。
27	あまり普段大きく意識されてはいないと思う。
28	教職員としては、自分の学校を選んでくれたという意識が強い。だから、少しでも子ども達の成長につながればと考えている教職員が多く見られます。
29	子供達も本校の特色ある環境や学校行事などを楽しみにしている。また、同級生の仲間意識が強く、望ましい人間関係になっていると思います。

問7 学校のPRなど情報発信の部分で学校側の努力課題あるいは市教委に何か要望がありましたら、お聞かせ下さい。

①【学校側の努力課題】 10件

1	情報発信が求められる時代なのはわかるが、日々子どもたちのために教育に打ち込んでいる教員に宣伝活動まで担わせることは難しい。
2	地域外から通学するので、学校の特色や方針、地域性などを理解していただけるよう情報発信していかなくてはならない。
3	各学校のホームページを活用出来ればよいと思う。
4	新聞社を読んで取り組みを紹介してもらったりしているが、まだまだである。保護者の本校に対する認識が市内でどのようなものなのかかわからないので、児童生徒の他の学校への流出を防ぐ対策に苦慮している。
5	学校のホームページの工夫でより広く学校の特色を伝える。
6	現在学校からの情報発信は、HP及び学校だよりの地域回覧等で行っており、今後も継続させたいと考えている。
7	学校のPRとしてはホームページ等の一般的な学校紹介が精一杯で、生徒を強引に集めるようなPRはすべきではないと考える。
8	学校の情報発信の上で、学校選択制に関して誤解を招かないように配慮が必要で慎重にしなければならない。
9	近隣校、または市内の小中学校同士の学校便りの交流など、市内の学校が相互に他校の教育活動などを知る機会が必要ではないかと思う。
10	本校の大きな課題は、児童数がだんだんと少なくなっていることである。様々な広報活動を活用して、本校の現状を伝えていきたい。

②【市教委へ要望】 10件

1	学校の設備に関して予算の確保をお願いしたい。教室や廊下等の湿気の多さ、冬期間における廊下の寒さ等の問題やオートロック化等、過ごしやすい環境づくりや児童の安全確保への支援をお願いしたい。
2	広く学校を見学し、保護者の責任において選択することを最初の段階で強く保護者に伝えてほしい。
3	募集人数を10人に限定して、少人数による学習指導ができるようにする。できれば、単学年による学級編成ができるとうよい。
4	情報発信をする時に、今までのような単なる学校紹介では、本校にはメリットはない。学校選択制が継続されるのであれば、地域の理解を得ながら、スクールバスの運行を含めた他地域の児童を受け入れることができるような体制づくりが必要である。
5	学校によって毎年事情が変化しているにもかかわらず、部活動を第一条件に選択することを認めるのは無責任だと思う。
6	児童の安全確保から、学校選択制を希望する保護者には、通学の際の送迎及び緊急時の迎えなど、学校の方針に従っていただくことを明記してほしい。

7	新1年生には、学校を選ぶ前に学校体験をさせてほしい。学校独自に行っても良いものなのか。個別に連絡して来ってもらうのは強制や威圧になりかねないか。
8	学校一斉公開日の際に、本校の参観者から「この学校が統合するのであれば、子どもを入学させようか迷っている」と言われた。統合問題については話題にもなっていないので、地域では学校選択の理由になっている様子である。学校としては困惑している。「学校適正配置」との関連もあると思うが、確かな情報提供をお願いしたい。
9	学校説明会は基本的に校区の生徒対象なので、選ぶための説明会を実施するのであれば、別日程で実施するなどした方が良くと思う。
10	保護者のアンケートや要望事項を見ると、やはり通学面でももう少し便利になることを望んでいる。要望に応じてスクールバスなどの手配をお願いしたい。

問9 今後の学校選択制のあり方について、何かご意見等があればお書き下さい。

1	従来通り、隣接学区における学校選択制の継続を希望する。
2	学校の独自性を出しやすいようにと考えられた方法だと思うが、時代が変わり、保護者が物申す制度になってしまったように思う。
3	学校選択制のねらいがわからない。どのような効果があるか、毎年提示してほしい。
4	地域にある学校は、地域の子供も通うとよいと考えているので、他市町村と同様の通学区域にもどしてほしいと考える。
5	「地域の子は地域で育てる」という概念のもと、「地域一体型・学校の顔づくり事業」を推進していることもあり、特例を認めつつ基本的に現状でよいと考える。それ以上の特色ある教育を望む保護者には「私立」という選択もあるのではないかと考える。
6	地域から学校が無くなるということは、地域にとっても児童生徒にとっても深刻な問題だと考える。学校選択制の推進によりそのようなことにならないよう、本調査を機に、江別市の学校選択制の成果や課題、今後の見通し等を教育委員会として明らかにしてほしい。
7	現状では、学校間格差を生むような状態ではなく、今後もそれを留意して進めてほしい。
8	この9年間で、小中で、どんな理由で、どの程度の希望者が存在し、実際に学校選択がなされたのか、約10年を経て制度自体の検証が絶対に必要である。本調査（アンケート）の結果を含め、今後の議論に期待する。
9	学校は、児童生徒に選択してもらうために様々工夫して教育活動を展開しているわけではない。「学校選択制をもって、学校間で競争原理が働き、教職員の意識改革が成され、結果として良い学校になれる。」などという論は、乱暴すぎる。むしろ、地域コミュニティーが壊れてしまう、あるいは、児童生徒の将来を見据えたときに、地域を離れて学ぶことのデメリットの方が大きいように感じ、廃止を含め、見直す時期にあると考えます。
10	学校選択制のあり方について、根本的に検討する時期に来ていると思う。
11	選択制を利用している人数の推移や利用した保護者・児童生徒の感想・意見の集約など、9年間のデータを総括し、今後の在り方を検討することが大切だと思う。
12	選択制を続けるなら、どんな家庭でも選択制が利用できるようにスクールバスや学童保育を充実させるなどの対策が必要である。
13	特別支援学級の生徒は登下校の負担を考えて、選択制ではなく、地域の小学校、中学校に通ったほうが良い。
14	特に意見はないが、学校選択はなくてもよいと思う。
15	どのようないきさつで始まり、毎年どのような実態があるのかをまず知りたい。
16	学校選択というよりも、部活動選択になっている。選択するのは自由だと思うが、間違ったエリート意識や勝利至上主義に陥らないような保護者・指導者の意識が大切だと感じる。
17	継続するのであれば、関係期間による再検討が必要。（要改善という観点で）
18	地域と学校との関係性を壊すことにならないような配慮が必要だと思う。
19	学校選択制が学校格差を生み出すことがないようにしなければならない。
20	保護者が、選択時のルールに責任を持って行えるのであればいいと思う。

- | | |
|----|---|
| 21 | 中学校までは、その住んでいる地域の中で、生活・活動をしていくべきだと感じる。 |
| 22 | 現在の方法を継続していく方向で良いと考える。 |
| 23 | 学校選択制という言葉は、自由な学校選びという感覚が保護者や児童生徒に伝わっていると思う。だから、今後とも様々な意見を聞き入れていただいている今の体制を、継続してほしいと思う。 |